



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1996・97年度国際ロータリー・テーマ

国際ロータリー会長 ルイス・ビセンテ・ジアイ



1. 先達の歩みに敬意を払うことによって未来を築こう
2. 会員増強で未来を築こう
3. 職業奉仕の質を高めることによって未来を築こう
4. 次の世代を準備することによって未来を築こう
5. 平和な都市づくりに尽力し、未来を築こう
6. ロータリー財団を支援することによって未来を築こう

職業奉仕・米山月間

第429回 平成8年10月4日(金)

[本日のプログラム]

1. 点 鐘
2. 国 歌 斉 唱
3. ローターソング「それこそローター」
4. 「四つのテスト」唱和
5. 食 事
6. 会 長 の 時 間
7. 幹 事 報 告
8. 各 委 員 会 報 告
9. 10月セレモニー
10. 会員卓話 佐野 保君
11. 点 鐘

次 回 予 告

*10月11日(金)

夜間例会

会員卓話

土屋光弘君

*10月18日(金)

創立10周年記念

大会準備委員会

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

会 長 伊東忠寛

例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913

副会長 徳丸彰一

事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614-

幹 事 赤木達也

佐土原町建築業協会内

会 計 宮原建樹

☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170

会 員 垂水敏雄

第428回例会記録

(1996. 9. 27)

☆会長の時間

伊東忠寛君

皆さん今晚は、本日は第428回例会です。佐土原ロータリー・クラブ恒例の『親月会』を開催しましたところ、ご家族お揃いでご参加いただきましたことにつきまして、厚くお礼申し上げます。

今日は暦の上でも『中秋の名月』に当たり、お天気にも恵まれ、計画どおりに実施できますことを大変嬉しく思います。

この『親月会』は、会員のご家族も一緒に参加していただき、家族共々親睦を深めていただくとともに、奥様方にロータリーについてご理解をいただきながら、暖かいご支援をいただくことにあります。

佐土原ロータリークラブは、次年度に『クラブ創立10周年』を迎えますが、ご家族皆様のご協力とご支援をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは時間の許す限りごゆっくりとご懇談いただきまして、一層の親交と親睦を深めていただきますようお願いいたします。

最後に、今回の親月会の計画、準備などについてご苦勞いただきました『親睦委員会』の皆様へ感謝の意を表します。ありがとうございました。

☆幹事報告

赤木達也君

1. 例会変更通知は来ていません。
2. その他の報告・連絡事項はございません。

☆出席報告

委員長 山本民生君

| | |
|------|------|
| 会員数 | 31名 |
| 出席者数 | 31名 |
| 出席率 | 100% |

例会に続いて『家族懇親親月会』が、シーサイドホテルフェニックスの会場で開かれ、心のこもった月見料理と和気藹藹とした会員・家族相互の歓談で、夜の更けるのも忘れて大いに盛り上がりました。



ロータリーの精神は、本質的に言ってその心にあるといわれています。

見ることも、触れることも、説明することもできません。

- なにげない出会いを深い友情に変えます。
- 退屈な任務を心躍るチャンスに変えます。
- 運見と頑固という束縛から解放します。
- 理解と友好のきずなに結びつきます。

また、ロータリー精神は慈雨のようなものといわれています。(ほどよく万物を潤す雨)

- わがままを一掃します。
- 人を隔てる障壁を取り去ります。
- 不和を調和に変えます。
- 競争を協力に変えます。
- 人生の美と、あらゆる人に備わっている気高さを目のあたりに見せます。

以上のようなすばらしいものであります。私どもの生活に是非生かして行きたいものです。

山脇初代会長

第34回例会記録(昭63・6・24)より

会長挨拶

山脇 忍

皆さん こんにちは。本日は第34回の例会であります。

皆さんの協力により、認証状伝達式は十分満足できる大会として無事終了し、感謝申し上げます。

会員が結束すれば大抵の事業は対処可能であることが証明されたわけで、非常に心強く思っています。

伝達式という最大の険しい山を乗り越えたのでありますから、今後は、無理のない佐土原RC独自の自由な発想による活動を推進していきたいと考えています。

会員の一人がいみじくも申しました「われわれはロータリアンとしては一年生であるが、人生経験においても一年生であるわけではない。その経験により、ロータリー活動にも十分対処できるのだ」と。私もそのご意見に大賛成であります。

勿論ロータリー活動を進めるに当っては、私どもはロータリアンとして一年生でありますから、ロータリーの綱領、定款、細則及び手続要覧等については、なお学習を強力に進めていく必要はありますが、佐土原RCのこれからの運営は、基本的には会員個々の意志を踏まえて、個性豊かなロータリー活動を進めていきたいと考えています。

会員の皆さんの協力を切にお願いいたします。

園山詩二特別代表より

皆さん 認証状伝達式の準備ではさぞお疲れになったことでしょう。

私も当日の天気が一番心配していたのですが、皆さんのご精進が天に通じて、絶好のC.N.日和となりました。

僅か20名の会費で、あれだけの成果を挙げられました佐土原RCの団結力とすばらしい行動力に、最大の敬意を表するものであります。

認証状伝達式は、ロータリーのいわば成人式と考えられます。

これからは、皆さんが自分の責任で判断し、活動しなければならなくなります。

今回のC.N.で得られた自信をもって、佐土原RCがますます発展されるよう祈念しております。

当日は記念品までいただき大変恐縮しています。

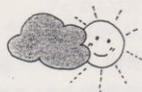
C.N. 実行委員会より

委員長 佐野 保

総務

C.N.の会計決算は、現在80%集約できております。

登録総数501名(佐土原RCを除く)で、当日来賓25名の方からのご祝儀もあり、概ね収入予算目標額に達したようです。決算でき次第ご報告いたします。



(疲れしない照明)

- ①画面の明るさは500ルクス以下が適当。
- ②原稿面やキーボードは300~1000ルクスになるように、ブラインドや天井照明、机上照明で調節する。
- ③画面の文字輝度調節は、むやみに文字コントラストを高くしないで、2対1から10対1程度に調節する。

日本って、なんか変

今から10年くらい前、自然とか環境とか、人間が生きるって何かな、ということを考えだしたところから、日本ってなんか変だな、と思っていたんです。ちょうどそのころ、登山をやり始めたり、仕事で北米大陸のなんにもないところや、南米、アフリカなどへ行くことが重なりました。

南米に行ったとき、不便だし、皆さん、決して豊かそうじゃない。収入も日本の20分の1くらい。だけど、日系の方に聞くと、「日本に帰ろうと思うとすごく大変だけど、ここにいる限りでは土地は買えるし、何の不自由も感じない」っておっしゃるんですよ。そうすると、日本で必死になって働いて、一生、住宅ローンを払うためだけに暮らす、それって金持ちといえるのかな、と、すごく考えちゃって。

日本人って、なんでもお金で済ませちゃう。例えば、水を出しっぱなしにしても、「水道代払えばいいでしょ」で済ませてしまう。でも、ここで無駄に使っている水は、私だけの問題じゃなくて、いつかみんなに付けがまわってくるんだと。そういうことを考えていた人が、途上国や山へ行ったりすると、やっぱりそうだよな（笑）っていう感じで、日本のこの便利さって、変だよなって。

南米は、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイに行きました。地元の貧しい人たちの暮らしを見てると、例えば、汚かったりするんですけど、でも、汚いことで死なないよね、みたいな気になっちゃう。確かに清潔にすると、伝染病が少なくなったり、良いこともいっぱいあると思います。だけど、人間って、あるていど汚いものも、免疫力を高めるのに必要じゃないかって気がするんですよ。

日本は、とくに東京は、異常にきれい好きでしょう？ そうすると、他人が飲んだコップも使えないって子ができてきちゃったりするわけじゃないですか。泥んこになれない子とかが増えてますでしょ。そういう日本って、やっぱり変なんだって、途上国へ行ったら、ちょっと自信ができたみたいなきもちです。

物を持たない幸せもある

タクラマカン砂漠の、ある長寿村を訪ねたことがあるんですが、そこは家族が100何歳のおじいちゃんから、長男が70歳で、5男が18歳とかあって、そういう世界なんです。そうすると、一家のなかの世代によって、暮らしが違ってきます。長男たちくらいまではシンプルな暮らしをしているんですが、3男、4男になると、子どもを都会に出していたり、また、そういう家ではビデオを持ってたりするんです。

でも、どっちが幸せそうかっていうと、シンプルな暮らしをしている人たちのほうが、幸せそうなんです。物を持っていてお金持ちに見えるほうは、子どもたちがばらばらで、いなかの大家族の村に来てもつまらないって、すぐに帰っちゃったり、あまり幸せそうに見えないなって思いました。

人間の本当の幸せって、物に支配されない、何もないことなのかも知れないって思いました。

山って、リュック一つで何日も暮らせちゃうんです。私、人間って、それだけで暮らせるなって思うんですよ。すると、東京にあるこのむだなものっていったい何だろう、ってなっちゃうんですが。

今、とにかくシンプルに暮らすことを心掛けています。お店では包装紙も断っているし、どこかに行くにしても車じゃなくて、歩いたり、電車に乗ったり。へたすると、いつか何もかもぜんぶ捨てて、どっかへ行っちゃうかもしれないって気がするんですよ。

市毛良枝さん